

平成二十四年度入学試験問題（前期日程）

国語

教育学部 学校教育教員養成課程

小学校教育コース 教育実践学専修 を受験する者は、一、二、三 について解答しなさい。

小・中学校教科教育コース 国語教育専修 および 特別支援教育コース 特別支援教育専修 を受験する者は、一、二、四、五 について解答しなさい。

注意事項

- 一、受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
- 二、解答は必ず解答用紙に記入すること。
- 三、解答時間は、一〇〇分である。
- 四、縦書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。

非公開

一

次の文章は、山川方夫の小説『最初の秋』の一節である。昭和十九年、中学生になった「私」の家族は、東京から離れた「二宮」の町に疎開する。しかし、画家である父はその町で死んでしまう。戦後、「私」は大学を卒業し、結婚をして再び「二宮」に住むことになる。父は、「私」の記憶の中で生きていく。本文は、長男である「私」が、父の死と遭遇する場面である。よく読んで、以下の各問に答えなさい。(三〇点)

非公開

非公開

『山川方夫珠玉選集―下 最初の秋』 冬樹社、一九七二年、二三四〜二三九ページ、抜粋

問一 波線部 a、e の漢字の読み方をひらがなで書きなさい。

- a 鳴咽 b 喚き c 形相 d 浸潤 e 喘いで

問二 傍線部①②の本文中における意味として、最も適切なものを次の各群の A、ウ、イ、エ、オのうちから、それぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

① 腰が抜けたように

- A 気力がなくなつて
イ 気が動転して
ウ 弱気になつて
エ 臆病になつて
オ 役に立たなくなつて

② 放心したように

- A 虚空をながめて
イ 泣き疲れて
ウ 心の赴くままに
エ ぼんやりとして
オ 理解に苦しむように

問三 傍線部 A「私は黙つたまま立ち上ると、ネルのパジャマを脱ぎ、教練服のズボンをはいた」とあるが、そのときの「私」の心情を説明しなさい。

問四 傍線部 B「襖を、はげしい音を立てて締めた」とあるが、そのときの祖父の心情を説明しなさい。

問五 傍線部 C「そのはしやぎぶりと奇声がたまらなく不快で、私は、目をそらせてはまた睨みつけるように彼女を見て」とあるが、なぜか。そのときの「私」の心情を説明しなさい。

問六 傍線部 D「私はいても立つてもらえない気持になりはじめた。ぼくは、ぼくの口から直接に母に告げたいのだ」などのように、本文には同一人物である「私」が「ぼく」と表記される箇所が数箇所あります。このことの影響について説明しなさい。

二

次の文章は、鷺田清一『わかりやすいはわかりにくい？―臨床哲学講座』の一部である。よく読んで、以下の各問に答えなさい。(三〇点)

非公開

非公開

非公開

(鷺田清一、『わかりやすいはわかりにくい?—臨床哲学講座』、筑摩書房、二〇一〇年、一二〇～一二七ページ、抜粋・一部改変)

問一 波線部 a、e のことばを漢字で表記しなさい。

- a かんせん b じゅうとく c かじょう d りゅうほ e すいしゅう

問二 1 に入る適切なことばを次の中から選びなさい。

- 湧き水 遣り水 磨ぎ水 走り水 誘い水

問三 2 3 に入る適切なことばを次の中からそれぞれ選びなさい。

- けれども ただし しかも そして つまり

問四 4 に入る適切な四字熟語を次の中から選びなさい。

- 沈黙考 紆余曲折 理非曲直 試行錯誤 吳越同舟

問五 傍線部 A「そのことには大きな意味がこもっている」とあるが、それはどういう点で大きな意味があるのか、本文の主旨に従って説明しなさい。

問六 傍線部 B「ちよつと危うい状況である」とあるが、それはどういう意味で危ういと筆者はみているのか、本文の主旨に従って説明しなさい。

非公開

〔三〕 は、学校教育教員養成課程 小学校教育コース 教育実践学専修 の選択問題

〔三〕 次の文章は、一九二九（昭和四）年頃の静岡県における小学校教師・戸塚廉の実践を、本人自身が後に回想したものである。よく読んで、この実践にみられる「学校での学びと生活の関係」について、四〇〇字以内で説明しなさい。（四〇点）

非公開

非公開

非公開

(注) 1 連茶先生——戸塚の自称。

2 こづかいさん——現在の校務員・用務員にあたる。

3 シロホン——木琴に似た打楽器。

4 ガリ版——先のとがった鉄筆で特殊な原紙に文字を刻み、原紙の上にローラーでインクをつけて印刷する手動の印刷機。鉄筆で文字を刻む際、「ガリガリ」という音が鳴るため、「ガリ版」と呼ばれた。

(戸塚廉、『いたずら教室』、講学館、一九五九年、七八〜八三ページ)

〔四〕・〔五〕は、学校教育教員養成課程 小・中学校教科教育コース 国語教育専修および特別支援教育コース 特別支援教育専修 の選択問題)

〔四〕 次の古文を読んで、以下の各問に答えなさい。(二五点)

非公開

(小島孝之校注、新編日本古典文学全集52『沙石集』、小学館、二〇〇二年、二六一～二六二ページ、一部改変)

(注) 1 家隆——『新古今和歌集』撰者の一人でもある名歌人・藤原家隆のこと。出家して禅師と呼ばれた隆尊は彼の第五子といわれる。

2 冠者ばら——成人して間もない若い家臣たち。

3 不祥にあひて——不運に見舞われて。

4 白波——盗賊のこと。中国で起きた黄巾の乱の残党が「白波谷」はくはこくにたてこもり略奪を働いたという故事が輸入、訓読みされた語。

5 よしの川——ここでは、形容詞「よし」と桜の名所である「吉野川」とを掛けている。

6 江州——近江の国。現在の滋賀県にあたる。

7 稗——イネ科の穀物だが、この時代はコメなどに比べると価値の低い食物と見なされていた。

8 かくる——ここでは「命をかくる」で「生きるための抛り所になっている」の意。

問一 傍線部①「捕らへよ」・③「なかり」・⑦「あやしげなる」について、それぞれ基本形を示したうえで、活用の種類・活用形として適切なものを左の選択肢から選び、記号で答えなさい。

〈活用の種類〉 a 四段活用 b 下一段活用 c 下二段活用 d ラ行変格活用 e ナ行変格活用

f ナリ活用 g タリ活用 h ク活用 i シク活用

〈活用形〉 ア 未然形 イ 連用形 ウ 終止形 エ 連体形 オ 已然形 カ 命令形

問二 傍線部②「ののしりければ」・④「縄な付けそ」を、それぞれ現代語訳しなさい。

問三 傍線部⑤・⑥「し」の文法的な違いについて説明しなさい。

問四 Aの和歌を、詠み手(隆尊)の工夫に留意しながら、現代語訳しなさい。

問五 Bの和歌から読み取れるあるじの境遇や心情について、太線部「み」が指す内容に注意しながら、説明しなさい。

五

次の文章は宋の文人沈括^{しんかつ}が著した随筆集『夢溪筆談』^{むけいひつだん}巻十三「権智」の一節である。本文と語釈をよく読んで、以下の各問に答えなさい。

(二五点)

非公開

(沈括、『夢溪筆談』巻十三、「権智」、叢書集成新編所収本、九〇ページ、抜粋・一部改変)

【語釈】

- 述古⇨宋の政治家陳襄の字(あざな)。
- 密直⇨枢密直学士の略称で天子の顧問。
- 建州浦城⇨福建省の地名。
- 鍾⇨鐘。
- 至靈⇨非常に靈驗あらたかである。
- 後閣⇨役所の裏の建物。
- 同職⇨同僚。
- 摸⇨「模索」の「模」と同義。

問一 傍線部①「弁^{ジテ}盜^フ」の「弁」と同様の意味の「弁」字を含む熟語を次の中から選び、記号で答えなさい。

- a 調整弁 b 弁解 c 花弁 d 弁別 e 弁当

問二 傍線部②「率」・③「令」の読み方を、それぞれ送りがなも含めて全てひらがなで答えなさい。

問三 空欄(④)を補うのに最も適当な漢字一字を次の中から選び、記号で答えなさい。

- a 恐 b 皆 c 概 d 却 e 少

問四 傍線部⑤「蓋恐^ニ鍾有^レ声不^ニ敢摸^レ也」を全てひらがなで書き下し文にしなさい。

問五 真犯人の手はなぜ他の容疑者たちの手と異なっていたのか、その理由をわかりやすく説明しなさい。

国語 解答用紙 (前期日程)

小学校教育コース 教育実践学専修

(注意 この解答用紙は表裏二ページになっている。)

一

国語	受験番号
得点	

問一	a	おえつ	問二	①	ア	②	エ	わめき	c	ぎょうそう	d	しんじゅん	e	あえいで
問三	父の死を、一刻も早く母に知らせたいという思いから緊張にとらわれながらも、出来るだけ冷静に受けとめようとしている。													
問四	一人息子を突然喪って動揺したものの、その死を怒りながらも、受け入れようとしている。													
問五	私は、父の死を母に知らせることに一心になって緊張している。その思いをだれにも邪魔されたくないので、無邪気な少女の行為でも許せない気持ちになっている。													
問六	「ぼく」と表記することによって、父を喪った少年時代の臨場感を伝える効果がある。													

二

問一	a	感染	b	重篤	c	過剰	d	留保	e	推奨
問二	誘い水									
問三	2	けれども	3	そして						
問四	試行錯誤									
問五	聴くことによって、語る本人が苦しみや鬱ぎにある距離をとり、それを対象化するなかで、それらとの距離が変わること、つまり苦しみや鬱ぎを当初あったとは別の地平へと移し変えるという点で大きな意味がある。									
問六	信頼は言葉の積み重ねの中でしか生まれてこないのに、人々は言葉のやりとりにかける時間を惜しむようになった。結果として自然に聞き役になりあう状況が失われ、聴く専門家が生まれなくなる。そうなる人はますます他人の話など聞かなくなり、子供の塞ぎすら容易にカウンセリングに頼るとういう状況に陥る。そういう意味で筆者は危ういとみている。									

国語 解答用紙 (前期日程)

小・中学校教科教育コース 国語教育専修
 特別支援教育コース 特別支援教育専修

(注意 この解答用紙は表裏二ページになっている。)

一

国語	受験番号
得点	

問一	a	おえつ	b	わめ	き	c	ぎょうそつ	d	しんじゅん	e	あえ	いで
問二	①	ア	②	エ								
問三	父の死を、一刻も早く母に知らせたいという思いから緊張感にとらわれながらも、出来るだけ冷静に受けとめようとしている。											
問四	一人息子を突然喪って動揺したものの、その死を怒りながらも、受け入れようとしている。											
問五	私は、父の死を母に知らせることに一心になって緊張している。その思いをだれにも邪魔されたくないの、無邪気な少女の行為でも許せない気持ちになっている。											
問六	「ぼく」と表記することによって、父を喪った少年時代の臨場感を伝える効果がある。											

二

問一	a	感染	b	重篤	c	過剰	d	留保	e	推奨		
問二	誘い水											
問三	2	けれども	3	そして								
問四	試行錯誤											
問五	聴くことによって、語る本人が苦しみや鬱ぎにある距離をとり、それを対象化するなかで、それらとの距離が変わるということ、つまり苦しみや鬱ぎを当初あったとは別の地平へと移し変えるという点で大きな意味がある。											
問六	信頼は言葉の積み重ねの中でしか生まれてこないのに、人々は言葉のやりとりにかける時間を惜しむようになった。結果として自然に聞き役になりあう状況が失われ、聴く専門家が生まれなくなる。そうなる人はますます他人の話など聞かなくなり、子供の塞ぎすら安易にカウンセリングに頼るといふ状況に陥る。そういう意味で筆者は危ういとみている。											

四

問二	④	どうか縄をかけてくれるな		
	②	大騒ぎしたので		
問一	⑦	基本形 あやしげなり	活用の種類 f	活用形 工
	③	基本形 なし	活用の種類 h	活用形 イ
	①	基本形 捕らふ	活用の種類 c	活用形 カ
問三	はサ行変格活用 of 動詞「す」 of 連用形で、 は過去の助動詞「き」 of 連体形である。			
問四	盗賊であると悪名が立つてもよいのだ。 吉野川のすばらしい桜の花のために落ちぶれた我が身を恨むことはするまい。			
問五	「み」には、あるじが食用とする稗を指す「草のみ(実)」「と」数ならぬ卑しきみ(身)「とが、掛けられている。粗末で小さな家に住み稗を食べて生きているあるじは、この和歌を通して、隆尊を泊めたりもてなしたりすることのできない自らの貧しさを訴えている。			

五

問一	d
問二	② ひきゐて
	③ しめ
問三	b
問四	けだしかねのこゑあるをおそれあへてもせざるなり。
問五	盗まなかつた者が鐘に触れば音が出ず、盗んだ者が鐘に触れば音が出る、と陳述古が説明したのを真に受けて鐘に触ることができなかつたから。